

校長研修だより60

学級経営の話①「クラスが成長するための4要素」

～「再契約」の6月～

2022・6・1 重枝 一郎

6月は学級経営の年間ビジョンにおいて最重要の学期と私は考えていた。見えないところが、ゆるみ、人間関係においても負の影響が生まれやすいタイミングである。意外と、この時期の荒れは見えにくく、時の流れに任せていると、2学期突然問題行動が勃発する。4月に学級で契約したことを、もう一度現状を踏まえて「再契約」しなくてはならない。

さて、成長していくクラスは、教師が生徒たちのニーズに応えながら何かを変えていく空気感がある。そこで、クラスを成長させる4要素について書く。

まずは「理想的な影響力」。

教師を参考にしたいと思えるような言動が必要になる。そして、その言動と教師の日常を一致させること。権力を行使するのではなく、自身の言動で示す姿勢を忘れてはならない。例えば、明るく落ち着いたクラスにしたいなら、常に笑顔で接したり、掃除で手を抜いてほしくないなら、一緒に取り組んだりすることである。

次に「モチベーションの鼓舞」。

前向きで健康的なモチベーションを維持するためには、達成感、やりがいが必要になる。ただ仕事をやらせる、管理するのではなく、生徒一人一人が工夫したり、刺激を感じるような環境をつくったりする。最もよくないのはマニュアル通りにしなくてはならないといった取組だと達成感は得にくく、うまくいかないときはすぐにあきらめてしまう傾向がある。

3つ目の要素は「個々への配慮」。

生徒一人一人に興味・関心をもっていることが大切である。一人一人がどんな性格でどんなニーズをもっているかを理解し、共感する。必要ならば適切なサポートをする。

最後に一番大事な要素が「思考力への刺激」である。

「もっとよりよいクラスにするためには」と向上心を常に意識するように働きかけていく。何らかのイノベーションを生み出すことである。一方、自分たちの良い持ち味に気づき、残すことも必要である。いじめ問題など、いじめがない時にこそクラスで議論する。いじめがない状態の今のクラスの良いところをより強化していく。

クラスの状況は、勝ち負けが明確なスポーツとは違い、指標がわかりにくい。だからこそ定義やゴールを具体的にすることが必要になる。

また、成長するクラスと低迷するクラスの違いは「お互いの話に共感できているか」である。人の話をしっかり聴き、相談し合っているかどうかである。

「自分が一番正しい」と思う人が少ないほどチームは成長していく。

こうしたことから、教師は人に対して興味をもつことが求められる。大事なものはなるべく多くの生徒と1対1で対話を重ねること。そのためにもビジョンを明確にして、対話しやすい環境をつくる必要がある。(二者面談)

学校やクラスは人が動いて成り立つものである。形でなく人に焦点をあてることで、あなたのクラスは成長していく。

J2, J3が6月に「Q-U アンケート」(学級満足度調査)を行う予定。事前に学年会にて、私が簡単な研修をする予定。興味のある人は学年を越えて参加してもよい。